

平成 30 年度 定期総会・技術講演会

1. はじめに

オホーツク技術士委員会は平成 30 年 5 月 11 日に定例の総会と技術講演会を開催しました。

技術講演会では、今年 2 月に韓国で開催された 2018 平昌冬季オリンピック大会で銅メダルの快挙を成し遂げた女子化カーリングチーム「LS 北見」が我々の地元である北見市出身であることから、カーリング技術に関する講演を開催しました。

講師は日本カーリング協会強化委員長であり、平昌五輪カーリング日本選手団チームリーダーで活躍された北見工業大学の柳准教授および同じく北見工業大学でカーリング研究をされている榎井准教授に講演を依頼しました。

一般の方にも参加しやすいよう身近で旬な話題であるカーリングを題材にし、氷上技術や情報技術といったことをテーマに行いました。

当日は網走開発建設部、網走建設管理部、各地方自治体や建設業に従事する技術者の方、道内のコンサルの方、また一般の方にも参加いただき、総勢 80 名以上の技術講演会となりました。

以下にその概要を紹介します。

2. 定期総会

○日 時：平成 30 年 5 月 11 日(金)午後 2 時～

○場 所：北見プラザホテル(北見市)

○議事内容：

- (1) 2017 年度 事業報告及び決算報告
- (2) 2018 年度 事業計画案及び予算案
- (3) 役員変更

総会は滞りなく進められ、決算報告・予算案、事業については例年通り春と秋に技術講演会を開催することで皆様の同意を得られました。

役員変更については、昨年度まで当委員会で副代表を務められた林技術士が人事異動でオホーツク管外へ転居されたので、新副代表として高橋技術士を選任し、皆様の拍手により承認されました。

3. 技術講演会

○日 時：平成 30 年 5 月 11 日(金)午後 3 時～

○テーマ：カーリングのためにできること

～北見工業大学の取り組み～

技術講演会は、オホーツク技術士委員会橘邦彦代表の挨拶から始まりました。



写真-1 講演会風景

また来賓として北見市選出の北海道議会議員、船橋賢二様より開催にあたってのご祝辞をいただき、講演会を開催しました。



写真-2 来賓挨拶

○講演1：カーリング部と人材育成の立場から

講師：北見工業大学 准教授

冬季スポーツ科学研究推進センター/
JOC 日本カーリング協会強化委員会
柳 等氏

(1)平昌オリンピックについて

日本カーリング協会強化委員長として、選手の滞
在する部屋の準備や大会中のメディアコントロール
(取材時間配分や立入制限措置)を行ったそうです。

大会中はカーリングストーンがもつクセを選手が
試合前に確認できるよう取り計らうこと、投石順番
を決めること、他チームの投石順をチェックする仕
事をしていたそうです。



写真-3 柳等講師

(2)北見工業大学カーリング部

大学の部活動ということもあり、勝利を重視する
といったことよりも、カーリングを通じ人間力の向
上を目指すといった教育面の側面が強いそうです。

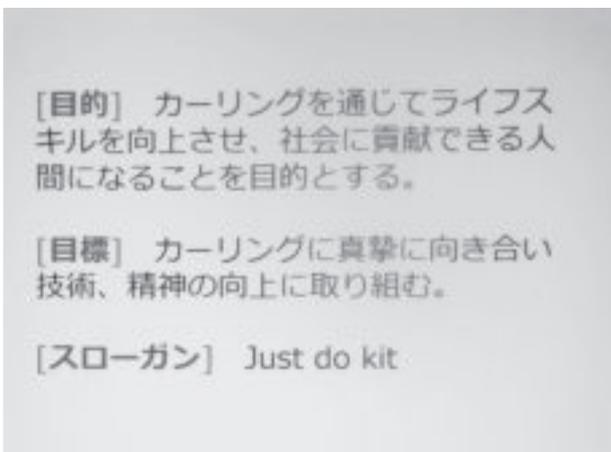


写真-4 技術講演会資料 1-1

カーリングに強くなるために必要な要素として
心・技・体・知の4要素があるそうです。

特に知の面ですが部員たちには現状分析・課題形
成シートを書いてもらうことで、目的意識の向上、
問題点を洗い出し課題解決能力の向上を図り、
PDCA を回し人間力の向上を目指しているそうで
す。

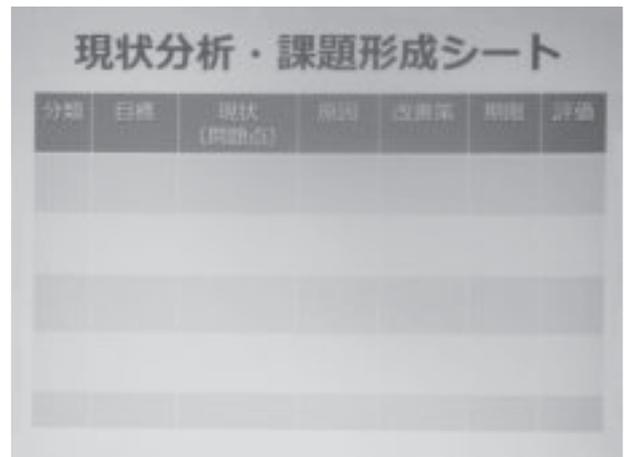


写真-5 技術講演会資料 1-2

心・技・体・知の4要素のうち、カーリングで最
も重要視されるのは“心”すなわちメンタルであり、
メンタルトレーニングをして以下の資料のようなこ
とが求められます。

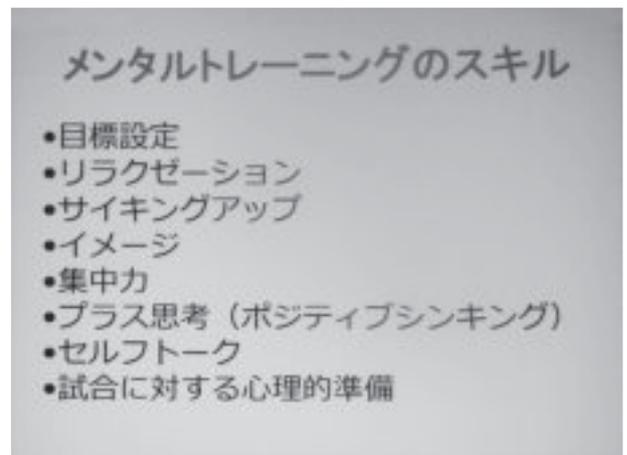


写真-6 技術講演会資料 1-3

メンタルトレーニングとして、今後取り入れるこ
とを検討しているのがマインドフルネス(瞑想)で
す。ユニバーシアードに出場している選手が取り入
れた結果、落ち着いて試合ができるなど良い結果を
残しているそうです。

ほかには練習時、心拍数をチェックすることで選手が真面目に練習を行っているか確認できるような方法も取り入れているそうです。

○講演 2：情報科学と支援研究の立場から

講師：北見工業大学 准教授

冬季スポーツ科学研究推進センター

榎井 文人氏

(1) 平昌オリンピックに向けた研究計画

2015年から2018年の平昌オリンピックに向けて、日本チームを優位にするための研究計画を立案したそうです。

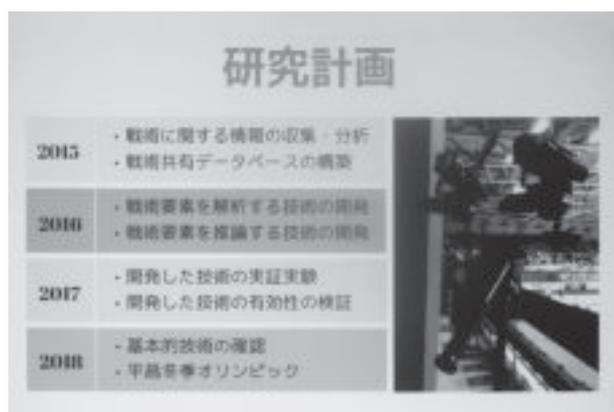


写真-7 技術講演会資料 2-1

昨今のカーリング競技では中国や韓国が躍進しており、試合のセオリーや過去のデータ、他チームのスタイルを研究することで日本の優位性を確保できないか、戦術面や科学技術の面から研究をおこなったそうです。

実はカーリングはストーンの挙動をだれも説明できないといった未研究分野であり、そのようなことから勝敗にかかわるような戦術的要素に関する調査



写真-8 榎井文人講師

も行われていませんでした。

榎井講師はもともとグーグル検索などで使われる自然言語処理の研究をされていましたが、このような未研究分野であるからこそ研究の価値ありといったことからカーリング研究を行うことになったそうです。

2015～2018の研究成果としては基本的技術の確認をしたこと、またAIによるデジタルカーリングも目指しましたが挙動の研究が思うように進まなかったため、試合の実績からシュミレーションを重ねデジタルカーリングに反映したといった成果となったそうです。

(2) デジタルスコアブックシステム「iCE」

カーリングのスコアブックは戦術の基盤であり、試合の水位が満載され戦術立案には不可欠のものであるが、記録内容がショットの種類・軌道・貢献度、ストーン軌跡、エンドごとの得点、先行・後攻の区別といった多くの情報を記録するものだそうです。

これだけの情報量を逐次記録するのは大変であり、さらに記録した情報を瞬時に分析して作戦に活かすのは困難とのことでした。

そこでスマートフォン端末を活用したデジタルスコアブックシステム「iCE」を開発し、簡単な端末操作で試合情報の入力を簡単に行えることを目指しているとのことでした。

「iCE」は国内チームへ無償配布し、試合データを提供してもらい、さらなるカーリング研究に活用しているそうです。

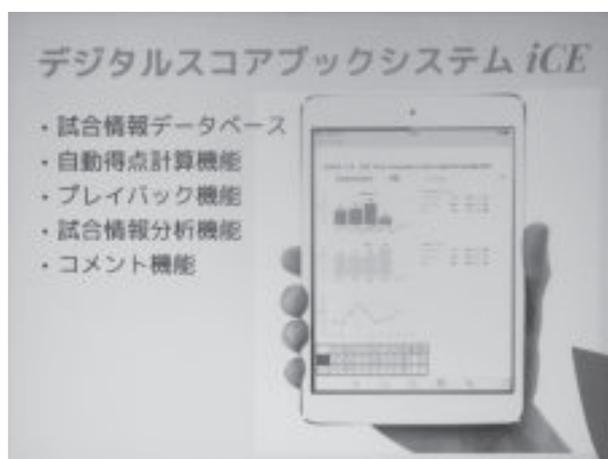


写真-9 技術講演会資料 2-2

4. 新合格者・新規会員祝賀懇親会

講演後、講師の方、新合格者、新規会員を囲んで、祝賀懇親会を開催しました。



写真-10 島田副代表の挨拶



写真-11 大島顧問の乾杯

島田副代表の挨拶、大島顧問の乾杯で祝賀懇親会は始まり、6名の新合格者から慶びの声をいただきました。



写真-12 新合格者の慶びの報告

その後オホーツク技術士委員会恒例の出席者全員のマイク紹介が始まり、日ごろの技術に対する思いや本技術講演会の御礼など各々述べました。



写真-13 祝賀会の様子1



写真-14 祝賀会の様子2

5. おわりに

今年度最初の技術講演会は身近な話題であるカーリングを題材としたことで、地域住民の方にも参加していただくことができました。

オホーツク技術士委員会は今後も講演会などを通じ、地域への貢献をしたいと考えておりますので、ご協力をお願いします。

結びとなりますが、今年度も皆様方のご健勝とご活躍を祈念し、報告といたします。